様式第３号

論　文　要　旨

氏　名	津田　尚吾
タイトル （日英併記）	有床義歯装着患者に対する補綴歯科治療介入が 咀嚼機能および QOL に及ぼす影響

論文の要旨（日本語で記載）

本研究の目的は，義歯新製を希望する有床義歯装着者に対して，補綴歯科治療介入が咀嚼機能および QOL の改善に有益であるかどうかを判定することである．対象者は，九州歯科大学附属病院義歯科を受診し有床義歯の新製を希望した有床義歯装着患者で，残存歯にカリエスや歯周病等が認められず，有床義歯以外の補綴処置を必要としない患者のうち，本研究に同意が得られた 12 名（平均 69.9±9.81 歳）とした．初診時調査項目として，年齢，性別，残存歯数，咬合支持（Eichner 分類），欠損歯列（宮地の咬合三角の分類），現有義歯の状態，現有義歯使用期間，全身健康状態（Barthel Index: BI），病歴，使用中薬剤，DMF および口腔内の補綴状況の 12 項目を調査するとともに，咀嚼機能評価として，最大咬合力，咀嚼能力，咀嚼スコアの 3 項目，全身的 QOL の評価として，12-Item Short Form Health Survey (SF-12)からの身体的サマリー（PCS）と精神的サマリー（MCS），および気分や感情の評価（POMS）の 3 項目，栄養状態の評価として簡易栄養状態評価（MNA），口腔関連 QOL の評価として OHIP-J14 と GOHAI の 2 項目について補綴歯科治療介入前後で評価した．その結果，補綴歯科治療介入により最大咬合力および咀嚼スコアが有意に増加し，OHIP-J14 と GOHAI のいずれも有意に改善したことから，補綴歯科治療介入は，有床義歯装着患者の咀嚼機能および口腔関連 QOL の改善に有益であることが示唆されたが，調査期間中において全身的 QOL の有意な改善は認められなかった．